第２回
御嵩町リニア発生土置き場に関するフォーラム

◆目次◆	（資料ページ）
① 第１回フォーラムでの質問に対する回答	１　～　１４
② 第３回以降のテーマ選定	１５　～　２０
③ 自然環境の保全、生活環境への影響について	JR資料１　～　３８

日　時：令和４年８月１１日（木）

14：00～16：00

会　場：中公民館　3階大ホール

話し合いの約束

- 他人を傷つける発言をしない。
- 多くの方の声を聞くために、短く話す。
  演説をしない。
- 発言を最後まで聞く。

第１回フォーラムを振り返って

・受け入れ前提の協議とは

「受け入れ前提」＝ 本町の協議方針

「協議」＝ JR東海の発生土置き場計画の合理性、安全性の確認

※ 現時点で町が受け入れを決めたというわけではない

・フォーラムの目的について

JR東海の発生土置き場計画の詳細説明を聞き、「将来に亘り安全か」や「対策は十分か」などの懸念を**有識者の専門的助言をいただきながら、公開の場で確認・解消していく**ことが目的

フォーラムの位置づけについて

【御嵩町】

・受け入れを前提に協議に入ることを決定
（理由については第１回フォーラム資料のとおり）

受け入れを前提に協議に入る

第１回目はここに終始する結果に・・・

【町民】

・受け入れを前提とする理由の説明がない
・なぜ決める前に住民に説明をしなかったのか
・安全なものしか受け入れないのではなかったのか

なぜ？？

・JR東海からの詳細説明を受け、安全性を確認していきたい
・有識者からの助言を受けながら安全性を確認していきたい

フォーラムを通じて安全性の確認

フォーラムでの目的は町民も町も同じ

・希少動植物の保護についてどう考えているのか
・封じ込め工法の安全性、盛土の安全性は大丈夫なのか
・監視方法や事故への対応は

など

一方、具体的に安全性を心配する声も

安全性の確認

専門的助言

【有識者】

・JR東海の説明に対する補足
・町、町民の疑問点について補足
・専門的見地から中立の立場で解説・提案

安全性の説明

【JR東海】

・発生土置き場計画の詳細説明
・町、町民からの疑問点、意見について回答
・有識者の見解を聞きながら計画への反映を検討

フォーラムの枠組み

本町へのご質問・ご意見について

第２回から第５回までのフォーラムを終え、JR東海の説明を確認した後に**再度、皆さまから本町へ対するご意見を伺う場を設けます**。

まずは、フォーラムを通じてJR東海からの詳細説明を確認し、**計画内容を把握したうえで、改めて皆さまからのご意見をいただきたいと考えています。**

〇第６回フォーラムの開催について（予定）
と　き：令和５年１月末頃
場　所：中公民館
内　容：第１部　第１回～第５回フォーラムのまとめ
　　第２部　町と町民との意見交換

第１回フォーラムでの質問に対する回答

第１回フォーラムで受けたご質問の概要

１．受け入れを前提に協議に入る理由
２．安全なものしか受け入れないのではなかったのか
３．メリットがない中、受け入れを前提に協議に入る理由
４．受け入れを前提に協議に入ることを決定する前に町民への説明、合意形成が必要
５．自治会要望（次月、美佐野、平）への明確な回答が必要

町より回答

（別冊資料のとおり）

６．リニア事業におけるトンネル発生土（要対策土を含む）の処理の考え方
７．なぜ御嵩町は恒久的な要対策土置き場なのか
８．他市の処理状況は
９．町内に要対策土置き場を設けず、専門業者（無害化処理工場）へ運搬できないのか
10．「住民の皆様の理解が得られなければ、要対策土を町外に持ち出す」とのJR東海の発言について

ＪＲより回答

本町へのご質問の回答について

第１回フォーラムにおける本町へ対するご質問、ご意見については別冊のとおり回答書をご用意しましたので、ご確認ください。

JR東海の**発生土置き場計画の合理性、安全性**については、これから**皆さまと一緒に本フォーラムを通じて確認（＝「協議」）していきます。**

本フォーラムを目的に沿って進めることが皆さまのご不安の解消に繋がると考えています。

第1回フォーラム　JR東海へのご質問・ご意見への回答

1. リニア事業におけるトンネル発生土（要対策土を含む）の処理の考え方

2. なぜ、御嵩町は恒久的な要対策土の置き場なのか

3. 他市の処理状況は

4. 町内に要対策土置き場を設けず、専門業者（無害化処理工場）へ運搬できないのか

5. 「住民の皆様の理解が得られなければ、要対策土を町外に持ち出す」という当社の発言について

1. リニア事業におけるトンネル発生土（要対策土を含む）の処理の考え方

- トンネル発生土（要対策土を含む）は、坑口近傍において、盛土等の埋め立てに使用することで、工事用車両の通行による周辺道路への影響を低減したいと考えています。

- そのうち要対策土は、鉄道関連施設として自社用地内での封じ込めにより対応することを基本とし、将来にわたり責任をもって管理するのが、当社の考え方です。

- 要対策土の封じ込めは、実績のある確立された複数の対策方法のうち、当社として方法を選定したうえで、安全性を更に高めた「二重遮水シートによる封じ込め工法」を考えています。

2. なぜ、御嵩町は恒久的な要対策土の置き場なのか

- 美佐野地内の２箇所の候補地は、坑口近傍に位置しており、要対策土を含む発生土全量を搬入することで、工事用車両の通行による周辺道路への影響を低減したいと考えています。

- 候補地Ｂについては、町有地を取得させていただき、自社用地としたうえで、要対策土の恒久置き場として、将来にわたって当社が責任をもって管理いたします。

- 要対策土の封じ込めを「二重遮水シートによる封じ込め工法」とすることで安全性を確保できると考えており、具体的な管理方法については、町民の皆さまのご理解をいただけるよう、引き続きご説明してまいります。

- 万が一、当社が封じ込めた重金属等が溶出し、周辺環境への影響が確認された場合は、当社の責任において、対策を講じます。

3. 他市の処理状況は

- 要対策土の恒久置き場の確保について、御嵩町に限らず関係箇所と協議をしています。一例として、中津川市内の中部総合車両基地及びその隣接地への搬入計画を進めています。

- 掘削開始後、要対策土が発生した際、関係箇所と協議中の場合には、専門業者へ持ち込むこともあります。

- 海洋埋立に活用いただいている場合もありますが、現時点で、新たな候補地はありません。

4. 町内に要対策土置き場を設けず、専門業者（無害化処理工場）へ運搬できないのか

- 専門業者へ運搬する場合、工事用車両が御嵩町内を走行することになります。
- 工事用車両をできる限り低減するとともに、専門業者の処理能力や他事業との兼ね合いから、計画的に要対策土を運搬できない可能性があるため、坑口近傍の美佐野地内において、恒久置き場（候補地Ｂ）を設けたいと考えています。

（参考）仮に要対策土を町外へ持ち出す場合のダンプトラック台数（試算）

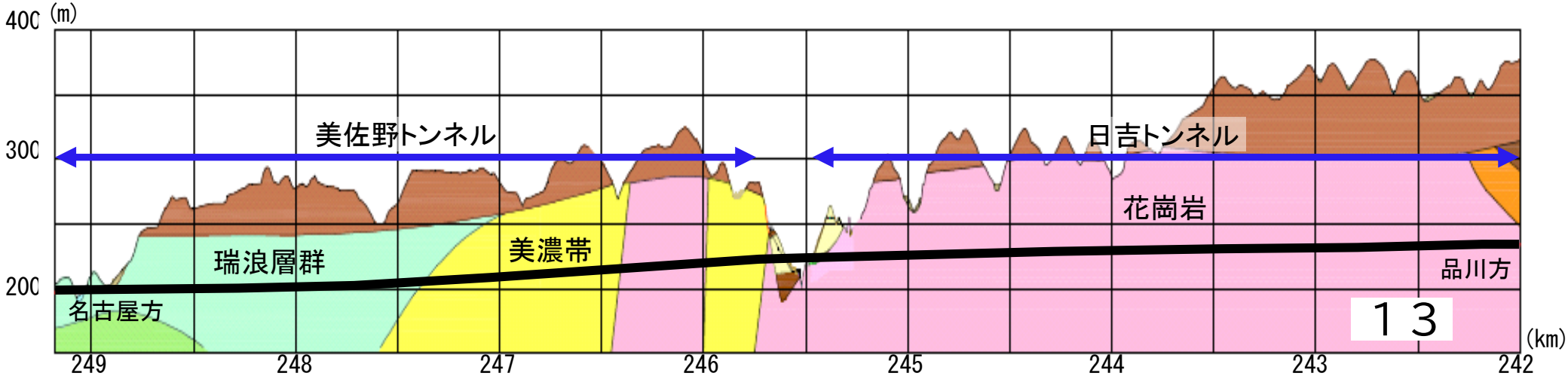
- 要対策土は、主に美濃帯や瑞浪層群を掘削する美佐野トンネルにおいて発生すると見込んでいます。
- 美佐野トンネルの掘削において要対策土が発生した際、仮に町外へ持ち出すと想定した場合のダンプトラック台数の試算は以下のとおりです。

① 美佐野トンネルの掘削により、1日当たり発生する土量は1,000m³程度

② 1日に1回検査を実施し、要対策土と判定された場合には、1日分の発生土全量（1,000m³程度）を搬出

③ 10tダンプトラックにて搬出する場合、1日当たり500台程度（往復）走行

④ 仮に8～17時の間にダンプトラックを走行させた場合、1時間当たり70台程度（1分に1台程度）が走行



5.「住民の皆様の理解が得られなければ、要対策土を町外に持ち出す」という当社の発言について

- 地元の自治会との打合せや当社主催の説明会において、「候補地Ｂが使えなくなった際の対応は考えているのか」というご質問をいただきました。
- 当社からは、「候補地Ｂが使えないということになれば、町外に搬出するという選択も出てくると思うが、現時点では考えていない」と回答いたしました。
- 引き続き、要対策土の安全な管理方法について、町民の皆さまのご理解をいただけるよう、ご説明してまいります。

第３回以降のテーマ選定

アンケートなどいただいたご意見

※4月27日（金）15時までにご提出いただいた件数

方法	人数	件数
事前アンケート（WEB・役場などの用紙に記載）	6名	47件
行政懇談会・事前質問	4名	11件
行政懇談会・会場質疑応答	11名	14件
行政懇談会・参加者アンケート	8名	8件
役場企画課に直接頂いたご意見	3名	63件
計	32名	143件

テーマ

第2回：自然環境・生活環境の保全

第3回：トンネル発生土の地質

第4回：要対策土の封じ込め工法と盛土構造の安全性

第5回：水質の管理方法と事故対応

第6回　第1部：第1回～第5回フォーラムのまとめ

第2部：町と町民の意見交換

第3回：トンネル発生土の地質

- 要対策土とはなにか？
- ウラン鉱
- 要対策土の地質

第4回：要対策土の封じ込め工法と盛土構造の安全性

- 封じ込め工法の概要
- 二重遮水シートの耐久性
- 盛土の構造
- 盛土構造の安全性

第5回：水質の管理方法・事故対応

- 工事中における排出水の管理方法
- 工事後のモニタリング（水質検査など）方法
- 地震・大雨等の災害への備え
- 万一事故が発生したときの対応